

令和 4 年 5 月 7 日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K11797

研究課題名(和文)台湾の民主化における「自救宣言」の役割再考

研究課題名(英文) Rethinking the role of "Declaration of Formosan Self-Salvation" in Taiwan's democratization

研究代表者

近藤 伸二 (Kondo, Shinji)

追手門学院大学・経済学部・教授

研究者番号：40735023

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)： 彭明敏・元台湾大学教授が国民党一党支配体制を批判した「台湾人民自救運動宣言」を作成した経緯や逮捕後の自宅監視の中を海外脱出した経緯はこれまで謎の部分が多かったが、本人をはじめ関係者への聞き取りや関連資料の収集・分析で、全容を明らかにすることができた。それにより、台湾の民主化に対する彭明敏氏の貢献を明確にすることができた。

海外脱出の経緯では、日本の支援者が大きな役割を果たしたことが明らかになった。支援者たちは自由や人権という価値観に共鳴し、自らの危険も顧みず、会ったこともない外国人の彭明敏氏を手助けしており、台湾が独裁体制だった1960年代から深い「日台の絆」が存在していたことが証明された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では、台湾の民主化は李登輝・元総統が主導した国民党による「上からの改革」による成果との認識が定着しているが、本研究によって、彭明敏氏のような様々な立場の人たちの「下からの努力と犠牲」の積み重ねもあったからこそ達成できたという事実を示すことができた。

彭明敏氏の命懸けの海外脱出には、日本の支援者の貢献も非常に大きかったことが本研究で明らかになったが、これは日台の歴史を考える上でも重要な意味を持つ。1972年の日台断交後、政府間関係はなくなりましたが、経済分野だけではない民間の草の根ベースの交流は続いていた。これが、現在の良好な日台関係につながっていることを再認識する必要がある。

研究成果の概要(英文)： Peng Ming-min, a former Taiwan University professor who criticized the Kuomintang one-party rule system, created the "Declaration of Formosan Self-Salvation" and escaped overseas from home surveillance after arrest, but there were many mysterious parts so far. I was able to clarify the whole picture by interviewing the person concerned and other related parties and collecting and analyzing related materials. This made it possible to clarify Mr. Peng Ming-min's contribution to the democratization of Taiwan.

It became clear that Japanese supporters played a major role in the process of escaping overseas. Supporters resonate with the values of freedom and human rights, do not care about their own dangers, and help Mr. Peng Ming-min, a foreigner who has never met, since the 1960s when Taiwan was a dictatorship. It was proved that "the bond of the platform between Japan and Taiwan" existed.

研究分野：地域研究(台湾・中国・アジア)

キーワード：台湾の民主化 移行期の正義 独裁体制打破 日台の絆

1. 研究開始当初の背景

台湾で2016年に発足した民進党の蔡英文政権は、国民党一党独裁時代の人権侵害について真相を究明する「移行期の正義」政策を進めてきた。それに伴って、国民党政権が市民を虐殺した1947年の「2・28事件」や、その後の当局による「白色テロ」に関する新たな資料の発見・公開や証言も相次ぎ、国民党一党独裁体制に闘いを挑んだ人々の功績が目されるようになってきた。

その中でも、彭明敏・元台湾大学教授らが蒋介石による独裁体制を批判した文書「台湾人民自救運動宣言(自救宣言)」を作成して逮捕された事件は、その内容の先見性に加え、国民党が重用したエリートが起こした「反乱」という点で、大きなインパクトがあった。国民党政権下では機密書類は公開されず、未解明の部分も多かったが、蔡英文政権の「移行期の正義」政策によって、アプローチできる資料も増えてきた。

彭明敏氏自身や日米の支援者がそれぞれ実体験を記した回顧録はあるが、それぞれは自らが関わったことしか書かれておらず、第三者が俯瞰的・総合的に描いた記録はなかった。彭明敏氏やその海外脱出を手助けした日本の支援者らの行動は当時としては犯罪であったため、関係者も長年、口をつぐんできた。だが、関係者はいずれも80歳代に達するなどが高齢化し、証言を得て事件の全体像を解き明かすには、あまり残された時間がない状況になっていた。

2. 研究の目的

台湾では1980年代後半から民主化が始まり、1996年の総統直接選挙を経て、現在では完全に民主的な社会となっている。台湾の民主化に関しては、日本では李登輝・元総統の指導力に焦点を当てる先行研究が多く、それ以外では野党・民進党(現与党)の立場から分析するものが主流となっている。

しかし、実際には、国民党一党独裁体制に様々なやり方で闘いを挑み、逮捕されたり処刑されたりした人も数多い。そうした人々の命懸けの行動の積み重ねがあったからこそ、民進党が生まれたのであり、李登輝氏も国民党内部から改革を進めることができたのである。

国民党政権から将来を約束されながら、蒋介石による独裁体制を批判する「自救宣言」を作成して逮捕され、釈放後に24時間監視体制の中を海外脱出して米国から台湾の民主化を支援した彭明敏氏は、そうした人々の象徴である。日本ではあまり知られていない彭明敏氏の生涯を評伝としてまとめることで、日本人の台湾の民主化に対する理解を深めることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は主に関係者のインタビューと関連現場の取材、関連資料の収集・分析を柱として行った。以下、項目ごとに列記する。

< 関係者のインタビュー >

研究対象である彭明敏氏には科研費取得前の2017年から2019年まで3年連続で、台湾の自宅で長時間インタビューを実施した。その他、「自救宣言」に関しては、謝聰敏氏や謝長廷氏、日本側支援者の宗像隆幸氏、阿部賢一氏、横堀洋一氏、小林正成氏、吉田重信氏、許世楷氏らに、日本と台湾双方で長時間のインタビューを行った。また、蔡英文政権が進める「移行期の正義」政策に関連して、台湾で葉菊蘭氏、黃煌雄氏ら政府要人にインタビューした。

< 関連現場の取材 >

彭明敏氏が「自救宣言」を印刷しようとした印刷所があった現場や、逮捕後に収容されていた複数の施設、釈放後に24時間監視されていた自宅(大学宿舎)のあった場所を訪れ、当時の状況を分析した。彭明敏氏が海外脱出に向け、パスポートを受け取るため阿部賢一氏と落ち合った場所や食事をしたレストランなども訪れ、当時の状況を再現した。多くの政治犯が収容され、現在は彭明敏氏も含めた8000人を超える名前が刻まれた記念碑のある離島・緑島も訪問し、監獄跡などを視察した。

< 関連資料の収集・分析 >

彭明敏氏や宗像隆幸氏、米国人牧師のタンベリー氏らが執筆した回顧録を入手し、状況を確認した。台湾では「白色テロ」に関する書籍や論文は多数出版されており、可能な限り収集して分析した。また、台湾の国家発展委員会檔案管理局や国史館を訪問し、公開されている史料を閲覧した。国家発展委員会檔案管理局では入手したい資料を申請し、許可されたものについては、後日、入手した。国史館では閲覧時の写真撮影が許可されていたため、必要な資料を撮影した。

4 . 研究成果

4年間の研究の成果として、2021年5月、『彭明敏 蒋介石と闘った台湾人』（白水社、283ページ）を出版した。この中で、彭明敏氏が「自救宣言」を作成するに至った経緯や、特務機関による厳しい監視の中、海外脱出した経緯を詳しく描いた。特に、日本人が関わった海外脱出劇では、関係した日本人一人一人を訪ね、証言を聞いて回った。今回のインタビューで初めて明らかになった内容も多かった。同書については、毎日新聞、日本経済新聞をはじめ多くの新聞や雑誌、ネットメディアなどの書評欄で取り上げられたが、「貴重な歴史の記録」との評価が大勢だった。世界では今もどこかで、民主化を求める人々が独裁政権との闘いを繰り広げている。本研究は、そうした人々に勇気を与え、多くの人々にその意義を伝える役割を果たせたのではないかと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年4月号
2. 論文標題 称賛集める新型コロナウイルス対策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 2 ~ p 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年6月号
2. 論文標題 追い風の中で蔡英文政権 2 期目がスタート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 1 ~ p 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年7月号
2. 論文標題 高雄市長解職で深まる国民党の苦境	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 2 ~ p 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年7月31日朝刊
2. 論文標題 台湾の主体性追求 初の直接選圧勝 李登輝元総統死去	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 毎日新聞	6. 最初と最後の頁 p 8 ~ p 8 (国際面)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年 8月号
2. 論文標題 コロナ禍で強める外交攻勢	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 1 ~ p 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年 8月25日号
2. 論文標題 台湾・李登輝氏が死去 『ミサイル空砲』見抜く 中国を手玉に取った技	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊エコノミスト	6. 最初と最後の頁 p12 ~ p12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年 9月号
2. 論文標題 『台湾民主化の父』李登輝元総統が達成した偉業と残した課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア時報	6. 最初と最後の頁 p 14 ~ p 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年 9月号
2. 論文標題 李登輝元総統死去で活発化する甲問外交	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 1 ~ p 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年10月号
2. 論文標題 現実味を帯びてきた米台FTA	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 4 ~ p 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年10・11月号
2. 論文標題 米中対立激化で急接近する米台	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人・大阪産業能率協会機関誌『産業能率』	6. 最初と最後の頁 p 13 ~ p 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年11月号
2. 論文標題 波紋広がる米国産牛肉・豚肉輸入解禁	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 1 ~ p 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年12月号
2. 論文標題 バイデン次期米大統領は『親台』路線維持か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 1 ~ p 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2021年 1月号
2. 論文標題 「台湾」を強調した新パスポートが登場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 2 ~ p 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2021年 2月号
2. 論文標題 台湾系のタイ氏が米新政権の通商代表に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 1 ~ p 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2021年 3月13日朝刊
2. 論文標題 書評『中国人のお金の使い道』中島恵著	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 毎日新聞	6. 最初と最後の頁 p 12 ~ p 12 (書評欄)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2021年 3月号
2. 論文標題 半導体不足で高まる台湾の存在感	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 一般社団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p 1 ~ p 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年4月号
2. 論文標題 台湾にとっての平成時代	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1 ~ p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年5月号
2. 論文標題 混沌とする総統選の候補者選び	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p2 ~ p2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年6月号
2. 論文標題 ファーウェイ禁輸の直撃を受けるハイテク企業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1 ~ p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年7月号
2. 論文標題 民進党の総統選候補に蔡英文氏	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1 ~ p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年8月号
2. 論文標題 国民党の総統選候補に韓国瑜氏	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1 ~ p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年9月号
2. 論文標題 高まる香港デモへの連帯ムード	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1 ~ p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年10月号
2. 論文標題 総統選は2大政党一騎打ちの構図に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1 ~ p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年11月号
2. 論文標題 米中貿易戦争で加速する製造業の回帰	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1 ~ p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年12月号
2. 論文標題 蔡英文氏優勢の総統選、立法委員選は激戦	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1～p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年1・2月号
2. 論文標題 香港デモの背景と台湾総統選への影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人大阪能率協会「産業能率」	6. 最初と最後の頁 p41～p41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年1月13日朝刊
2. 論文標題 「香港」住民に切迫感	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 毎日新聞	6. 最初と最後の頁 国際面・ミニ論点
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年1月号
2. 論文標題 「反浸透法」巡り激化する与野党対立	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p2～p2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年1月28日号
2. 論文標題 台湾総統選で蔡英文氏再選 香港デモに共鳴の世論味方に 「1国2制度」反対訴え	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊エコノミスト	6. 最初と最後の頁 p13～p14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年2月号
2. 論文標題 「1国2制度」にノーを突き付けた総統選	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1～p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年3月号
2. 論文標題 台湾総統選と香港デモで拒絶された「1国2制度」の挫折	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般社団法人アジア調査会「アジア時報」	6. 最初と最後の頁 p14～p26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2020年3月号
2. 論文標題 新型肺炎で高まるWHO加盟への支持	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 p1～p1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2019年1・2月号
2. 論文標題 「移行期の正義」が映し出す台湾人の意識変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア時報	6. 最初と最後の頁 8～19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2018年12月11日号
2. 論文標題 台湾統一地方選 与党・民進党大敗で苦境に立つ蔡英文政権	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 14～14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2018年12月2日朝刊
2. 論文標題 この3冊 (テーマ = 米中台関係)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 毎日新聞	6. 最初と最後の頁 書評欄
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2018年9月号
2. 論文標題 最近の台湾情勢「『暗黒の歴史』を伝える人権博物館」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 一般財団法人台湾協会報	6. 最初と最後の頁 1～1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤伸二	4. 巻 2018年9-10月号
2. 論文標題 トランプ政権下の米中台関係	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 一般社団法人・大阪能率協会機関誌「産業能率」	6. 最初と最後の頁 18～18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 4件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 近藤伸二
2. 発表標題 米中対立激化で緊密化する米台関係
3. 学会等名 大阪日中交流協会2020年11月例会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤伸二
2. 発表標題 日本の電機メーカーはなぜ衰退したのか
3. 学会等名 茨木シニアカレッジ「いこいこ未来塾」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤伸二
2. 発表標題 香港デモの背景と台湾総統選への影響
3. 学会等名 一般社団法人大阪能率協会海外事業部11月例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤伸二
2. 発表標題 台湾總統選挙：現下の情勢と今後の見通し
3. 学会等名 一般財団法人世界政経調査会・国際情勢研究所（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤伸二
2. 発表標題 「おはようパーソナリティ 道上洋三です」で台湾總統選について解説
3. 学会等名 朝日放送ラジオ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤伸二
2. 発表標題 台湾總統選と立法委員選の結果分析
3. 学会等名 日台交流芦屋の会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤伸二
2. 発表標題 台湾總統及び立法委員選挙の結果分析と東アジアの今後を占う
3. 学会等名 日本と台湾を考える集い
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤伸二
2. 発表標題 台湾の民主化における「彭明敏事件」の役割再考
3. 学会等名 第16回日本台湾学会関西西部会研究大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 近藤伸二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 283
3. 書名 彭明敏 蒋介石と闘った台湾人	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------